

元祖国際都市・  
宗像のあるべき  
姿をかんがえます。



姉妹都市・金海市の  
伽椰文化祭に  
招待されました。

# Go! 剛! NEWS!!

政務調査報告書

第36号

## 外国人の労働者、児童・生徒への対応は？

全国の外国人労働者は、少子高齢化、人手不足の解消のため、大幅に増加しています。宗像市の外国人割合は増加しているものの853人、県内で72市区町村中51位と低く、国籍別では、韓国、中国、近年はベトナムとネパールが増加。在留資格は特定技能・技能実習が多い状況です。住宅都市という性格上、商業・工業都市に比べて割合は低いですが、今後、特定技能2号の拡大によって、農業、漁業、食料品製造などの分野で配偶者と子どもの帯同や在留期間の延長も可能になり外国人労働者、それに伴う子どもは更に増加することが予測されます。



金海市は外国人移住が多い国際都市です。外国人街、昔ながらの市場、近代的なビルが混在する魅力的な街並みでした。

全国で日本語指導の必要な子どもは5万8千人、10年で1.7倍に増加、2割以上が特別な指導を受けることができていません。宗像市においては、母国語が9か国語に及ぶ20人(小学校6校13人、中学校3校7人)が日本語指導を必要としていますが、県の日本語指導教員と市の学力向上支援員が二人だけで巡回指導、授業は担任の先生が身振り手振りを交えて普通学級で行っています。外国人の対応が加わることでクラス全体に目が届かなくなることもあり、支援が必要ですが国県は対応ができていません。「市が独自で日本語指導教員の人員を確保して配置すべき」と強く訴えました。またIT技術やむなかつた日本語教室、大学生など外部人材を活用して国籍に関係なく子どもが学び経験できるグローバルな教育環境をつくるべきです。

外から宗像を見た特徴は「寛容性」、自然や状況、新しいものを受容れること、だと言われます。古来、自然と向き合い、大陸との玄関口であったという素地が寛容性を育てたのではないかと、思います。ダイバーシティインクルージョン(多様な人材を受け入れ、能力を發揮させる)が推進されていますが、寛容性が不可欠とされています。これは時代が求める感覚であり、伸ばすことで労働力が確保され、多様性を持つ子供が育つ、新しい宗像の豊かさになると考えます。

ご意見、ご感想などメッセージ頂ければ励みになります!

日々の活動はfacebookにて  
[fb.me/goyo4da](https://fb.me/goyo4da)

吉田ごうのホームページ  
[non3.jp/yoshidago](https://non3.jp/yoshidago)

一般質問の会議映像は  
宗像市役所HPにて

## ■ アフターコロナの地域伝統行事の価値は？

国は文化保護法を改正し、地域に根差した伝統行事などの未指定の文化財を保護の対象としました。宗像市では、世界文化遺産の顕著な普遍的価値である宗像三女神信仰の祭礼が形をかえつつ受け継がれ、暮らしに溶け込んだ行事として地域に根差しています。しかし、担い手不足、経費不足、地域住民の理解不足、さらにコロナ禍によりノウハウの継承や後継者の育成が中断された上に、祭りの必要性の考え方の違いから再開できないという状況もあり、存続の危機に瀕しています。神職の方から「神郡宗像の特徴はたくさん神社があるだけではなく、氏子や地域住民がそれぞれの祭りを行い伝統を継承していること」とお聞きしました。祭りなどの伝統行事の継承は、アイデンティティであると同時に、地域住民の結束力を高め、未来の担い手である子どもたちを育てることにつながります。そのために、自分達の祭りは自分達でというスタンスはまもりつつ、課題を減らす仕組みが必要です。

国は地域文化財総合活用推進事業でコロナ禍特例として支援を行っていますが、申請手続きが非常に複雑で専門知識が必要でした。そこで、宗像市全体の地域伝統行事の継承の窓口となる団体を作り、手続きと情報提供の支援を行うよう強く要望しました。県は地域伝統行事お助け隊事業において、担い手となる人材を県内外から募集して、登録・派遣します。それぞれに適した人材を派遣する調整役が重要になり、ここでも窓口となる団体をつくる必要性があると考えます。市の文化芸術活動事業補助金は期限が3年です。継続という目的を考えるとこの期限は見直しが必要だと訴えました。

宗像の精神性が具現化された地域の祭りは誇るべき価値です。コロナ禍でこの価値が明確になったことをポジティブに捉えて、継続の仕組みを作り、アフターコロナの新たな豊かさにつなげていきたいと思えます。



祭りのある地域は元気だと言われます。示現神社のお祭りの田熊山笠とおくだりは子どものころから参加してきました。コロナ禍の影響を大きく受けましたが、一部の形を変えながら継承されています。

### 吉田ごう 議員活動ダイジェスト

#### 宗像市議会議員 吉田ごう

昭和48年 3月、宗像市田熊生まれ  
東郷小学校～中央中学校卒業  
平成3年 宗像高校卒業  
平成8年 福岡大学経済学部卒業  
平成8年 株式会社トランスオービット(旅行業)  
入社、平成24年6月退社  
平成24年 10月、宗像市議に初当選  
令和2年 宗像市議に三選を果たす  
現 在 宗像市久原に在住

- 4月 花見や入学式、個人的な20年の区切りもあり、あらたなスタートを感じます。
- 5月 韓国・金海市の伽椰文化祭に招待されました。昨年30周年を迎えた姉妹都市交流ですが、最初の議員訪問団に父が参加していた、と聞き縁を感じます。後援会の会長で長年支えて頂いた吉原勤三さんをご逝去されました。吉原さんのように心からありがとう、と言えるような人になりたい、と思えます。
- 6月 田熊山笠の総決起集会で今年は4年ぶりに通常の行程で運行。東郷小では山笠教室とてっぽう作り。コロナ禍を乗り切った実感がわきます。

